実践・活動報告

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 看護部の地域に向けた取り組み

Contribution to surrounding territory by the Department of Nursing,
Nagoya City Rehabilitation and Sports Center Hospital

白川 淳¹⁾ 岡 亜 澄¹⁾ 金 澤 由佳理¹⁾
安 藤 麗 華¹⁾ 根 井 さき子¹⁾

キーワード：地域包括ケア，地域貢献，社会貢献

Key words : Community-based care, Regional contribution, Social contribution

抄 録

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院は医療や福祉の専門職が多く働いているという特長がある。看護部では、地域包括ケアシステムの構築がすすむ中で地域の方に当センターの役割を知ってもらうとともに、この特長を生かし健康に関する情報の提供を通じて地域に貢献することを目的に、平成 27 年度から「市民公開講座」、「看護の日イベント」を開催してきた。

目的の達成に向けて模索する中で、地域に向けた取り組みとして行ってきたこれらのイベントが、地域の方との交流の場としての役割、地域の方の居場所としての役割、地域の方の相談窓口としての役割、スタッフの人材育成の場としての役割を果たしていることに気づくことができた。

私たちは地域に向けた取り組みが果たすこれらの役割を大切にしながら充実を図るとともに、より多くの方と積極的に交流し地域に貢献していきたい。

I. はじめに

名古屋市総合リハビリテーションセンター（以下、当センター）附属病院看護部では平成 27 年度より地域の方に向けた健康情報の提供を主としたイベントを行っている。平成 28 年度からは回数を年 2 回に増やし、令和 1 年秋に予定されているイベントで 9 回を数える。

私たちが地域の方に向けたイベントを開催する目的は、地域包括ケアシステムの構築がすすむ中で地域の方に当センターの役割を知ってもらうとともに、医療や福祉の専門職が多く働く当センターの特長を生かし、健康に関する情報の提供を通じて地域

に貢献することである。

平成 28 年度からは当センターが「なごやよりどころサポート事業」（社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会を事業主体とし、名古屋市内の社会福祉法人が協働して地域の方の抱える困難な福祉課題の解決に向け行う公益的な事業）に参画したことから、私たち看護部はその一環である「居場所・サロン事業」としてイベントを実施している。「居場所・サロン事業」は地域の方を対象にしたイベントを毎月 1 回行うもので、看護部は 5 月と 10 月の年 2 回を担当し、それぞれ「看護の日イベント」、「市民公開講座」として開催してきた。

これまで 5 年間にわたり実施してきた 8 回の取り

受理日：2019 年 8 月 8 日 採択日：2019 年 10 月 1 日

¹⁾名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院

組みについて、その概要と今後の展望について報告する。

II. 取り組みの概要

1. 市民公開講座

地域に暮らす市民の人々の健康管理に関する情報提供を行い、地域社会に貢献するとともにセンターについて知ってもらい、身近な存在となるようアピールする機会とすることを趣旨に開催。

1) 平成 27 年度 (H27.10.28 13:00 ~ 15:00)

【テーマ】「脳卒中予防のための水分摂取の方法」

【形式】看護師による講義、医療専門職（医師・認定看護師・管理栄養士・理学療法士）による健康相談

【内容および参加者の反応】

講義：

脳卒中予防のための水分摂取の重要性や、水分を少量ずつ複数回に分けて摂取することなどが説明された。参加者は熱心に話を聞き、メモを取る方もいた。アンケートに書かれた感想からは「わかりやすく、理解できた」「病気になるってほしくないとの気持ちが伝わってきて感動した」等好意的な意見が多く、否定的な意見はなかった。

健康相談：

相談件数 24 件であった。それぞれの件数と主な相談内容は以下の通り。

医師 8 件（脳卒中後の介護に関するものや、脳梗塞の症状と検査についての相談）

看護師 1 件（嚥下障害に関する内容であったが、大部分は相談者の介護体験を傾聴する場となった）

理学療法士 9 件（相談者のリハビリのやり方が正しいか見てほしいといった内容や、前屈みの姿勢を改善する方法について）

管理栄養士 6 件（体重がなかなか減らない等）

2) 平成 28 年度 (H28.10.12 14:00 ~ 15:30)

【テーマ】「摂食嚥下」

【形式】看護師による講義、管理栄養士による嚥下食の試食体験

【内容および参加者の反応】

講義：

「上手にゴクン飲み込みの科学」の題目で、口腔や咽頭の解剖、嚥下のメカニズムについての説明や、増粘剤を用いた水分の試飲を行った。

嚥下食の試食体験：

嚥下食や家庭での食事を飲み込みやすくする工夫について説明を行った。普段あまり食べる機会がない病院の治療食を口にした参加者から「思っていたよりおいしくて驚いた」等の感想が聞かれた。

3) 平成 29 年度 (H29.10.18 14:00 ~ 15:00)

【テーマ】「お口から考えるあなたの健康」

【形式】看護師による講義、看護師・歯科衛生士による質疑応答

【内容および参加者の反応】

講義：

口腔衛生の必要性やフレイルなどを扱い、正しい歯磨き、歯間ブラシの使用方法については事前に撮影したビデオを上映して説明した。参加者は提供された使い捨て歯ブラシを動かしながら説明を聞いた。また、歯科用のガムの食べ比べ体験も取り入れた。ときどき参加者にマイクを向けて話を聞きながら和やかなムードの中で行われた。

質疑応答：

クイズ形式を取り入れたことで参加しやすい雰囲気となった。参加者からは「大変勉強になった」、「わかりやすかった」、「フレイル予防に注意して生活したい」等の感想があった。

【その他】

終了後に個別で口腔ケアに関する 3 件の相談があり、看護師と歯科衛生士が対応した。お土産として、歯みがき方法が印刷された手作りのゴム磁石を配布した。

また、当センターの地域貢献活動の実際を体験し視野を拡げることを目的に病棟スタッフの参加が始まった。当センターの地域包括ケアシステムにおける役割や位置づけ、自己の組織的役割について理解することを期待し中堅看護師 2 名を選んだ。参加したスタッフからは「地域

の人と関わって楽しかった」「地域に向けた活動が大切だと分かった」等の感想が聞かれた。

4) 平成 30 年度 (H30.10.17 14:00 ~ 15:00)

【テーマ】「免疫力向上で健康に！」

【形式】看護師による講義

【内容および参加者の反応】

講義：

免疫についての説明やチェックリストを用いた免疫力低下の確認のほか、免疫力向上に効果があるとされる食品の試食も行った。

質疑応答：

あらかじめ想定問答を Q&A 方式でまとめておくことで、参加者からも質問がしやすい雰囲気となった。アンケートの結果から内容が楽しくわかりやすかったとの評価を得た。

【その他】

講義終了後、同年5月の看護の日イベントで作った種だんごが病院ルーフガーデンでたくさんのお花を咲かせている様子を写真で紹介した。参加者からも「自宅の庭で花が咲いた」等の反応があった。講義終了後に参加者から血圧に関する質問があり看護師が対応した。

2. 看護の日イベント

ナイチンゲールの生誕にちなんだ5月12日の看護の日と看護の日週間をアピールし、地域の方とふれあう中で看護の心を伝えることを趣旨に開催。

1) 平成 28 年度 (H28.5.12・13 10:00 ~ 15:00)

【テーマ】「食事の塩分量を調べてみよう」

【形式】体験を含んだ展示（入退場自由形式）

【内容および参加者の反応】

減塩の必要性について掲示を行ったり、塩分計を用いて参加者がそれぞれの家庭から持参した味噌汁等の塩分濃度を測定した。また、あらかじめ準備しておいた味噌玉（味噌と味噌汁の具を団子状に丸めたもので、お湯をかけると味噌汁ができる）による味噌汁や市販のカップ麺の試食と塩分濃度の測定を通して、減塩について啓発を行う内容とした。また、ナイチンゲールに関するパネル展示を行った。

自宅から持ち込まれた味噌汁等の塩分測定は

6件であった。1日目は79名の参加があり混雑したが、待ち時間に会場の洗面台を用いて衛生的な手洗いについて体験してもらうなど臨機応変な対応ができた。2日目は37名が参加した。混雑が緩和し、参加者にゆっくりと説明したり、参加者からの話を聞く時間をとることができた。

【その他】

何人かの参加者からは悩みの相談があり看護師が傾聴した。

2) 平成 29 年度 (H29.5.11 10:00 ~ 14:00)

【テーマ】「認知症予防」

【形式】体験を含んだ展示（入退場自由形式）

【内容および参加者の反応】

認知症予防の運動（後出しじゃんけんや足踏み語想起など）で看護師と楽しみながら体を動かしたり、家庭用ゲーム機を用いてクイズで楽しむことを主体とした。ほかに認知症自己チェックシートを用いたセルフチェックや認知症に関する展示、認知症を題材にしたショートムービーの上映などを行った。また、茶話会コーナーを設け、飲物を準備し参加者との会話を通してふれあう場とした。

参加者が集中し混雑する時間帯もあったが、空いているコーナーに誘導することで比較的待ち時間が長くなることなく対応できた。運動や家庭用ゲーム機を参加者と一緒に行う中でたくさんのお花が見られ、参加者から「楽しかった」等の感想が聞かれた。

【その他】

イベントには当センター附属病院で実習中の看護学生も参加し、医療機関による地域貢献活動の実際を見学した。

3) 平成 30 年度 (H30.5.16 10:00 ~ 12:00)

【テーマ】「種だんごを作ろう」

【形式】体験を含んだ展示（入退場自由形式）

【内容および参加者の反応】

種だんごとは植物の種と数種類の肥料を団子状にしたもので、庭などにおいておくと植物が育ち、東日本大震災の復興の際にも注目を集め

た。種だんご作りを通じて、看護師が地域の方とふれあい、看護の心を伝えることを趣旨に実施した。参加者が種だんご作りを通して看護師と会話しながら楽しく実施することができた。上肢に麻痺のある方の参加もあったが、看護師が介助して種だんごを作ることができた。

また、生活習慣病に関する掲示物による情報提供や、看護師による血圧、身長、体重測定、BMI チェックや、生活習慣病チェックシートを実施した。

【その他】

イベント中に参加者から家族の介護に関する相談があり傾聴した。

4) 令和元年度 (R1.5.14 10:00～12:00)

【テーマ】「リラクゼーション」

【形式】体験を含んだ展示（入退場自由形式）

【内容および参加者の反応】

体験として、看護師によるハンドマッサージ、血圧測定、お菓子とハーブティーの提供、血圧測定を行った。展示として、アロマセラピーの効果やハンドマッサージで刺激するツボについての情報を掲示した。会場はアロマ発生器を使用してアロマオイルの香る空間にした。

また、日本看護協会が展開するナーシングナウキャンペーンについて、パネル展示による情報提供を行った。

開場直後から混雑し、ハンドマッサージを受けらるまでに最大で30分程度の待ち時間ができたが、空いているコーナーに誘導するなどして対応した。

【その他】

当センター附属病院で実習中の看護学生がイベントを見学した。

Ⅲ. 参加者アンケート結果

過去8回のイベントのうち6回で参加者アンケートを実施した。そのうち、各回通して共通する質問項目の集計結果を表1～3にまとめた。

Ⅳ. 今後の展望

私たちはこれまで5年間にわたり地域の方に向け

たイベントを企画し実施してきた。看護師をはじめ、医療や福祉のスペシャリストが培ってきた専門知識の還元を通して、当センターの存在や社会的役割を知ってもらうことを目的に試行錯誤する過程で、イベントが果たすいくつかの役割に気づくことができた。

具体的にはまず、地域の方との交流の場としての役割である。当センターの存在や行っていることの社会的意義について知ってもらうきっかけとなるだけでなく、私たちにとって地域の方が健康、医療、福祉についてどう考え、どのようなニーズを持っているかを知る機会にもなっている。また、地域の方と直接交流する中で、様々な心のふれあいがある。ホスピタリティー精神で接することを心がけてきたが、地域の方からの感謝の言葉やうれしそうなお笑顔により、逆に私たちが癒やされたり勇気づけられることも多い。

つぎに、地域の方の居場所としての役割がある。「居場所・サロン事業」は毎月1回、年間を通して開催されており、当センターの様々な部署がそれぞれの専門知識を生かした内容となっている。毎回楽しみにして友人を誘って参加する方もいる。定期的に参加者同士が顔を合わせることで新たなコミュニティーができつつある。

さらに、地域の方の相談窓口としての役割もある。イベント内の質疑応答の時間だけでなく、終了後に悩みごとを相談する方がこれまで何人もみられた。内容により適切な部署や機関を案内する場合もあるが、対応してみても分かったことは問題を解決してほしいというニーズよりも、話を聞いてほしいというニーズの方が大きいということである。地域の方が抱える悩みごとには簡単に解決策が見つからないものも多い。それらに耳を傾け受け止めることも私たち看護師の重要な役割の1つであると考える。

最後に、スタッフの人材育成の場としての役割も忘れてはならない。主任会を中心に毎年イベントを実施する中で様々な気づきがあり、私たち自身も成長していることを実感した。現在では病棟スタッフや実習中の看護学生の参加を意識的にすすめる、人材育成の場としても積極的に活用している。特に、中途採用の中堅スタッフの参加は地域包括ケアシステムの中で当センターが果たすべき役割の理解や、組

織への帰属意識の向上などの効果があると考える。

私たちは地域に向けた取り組みが果たすこれらの役割を大切にしながら充実を図るとともに、より多くの方と積極的に交流し地域に貢献していきたい。

V. 利益相反

論文内容に関し開示すべき利益相反の事項はない。

表1 市民公開講座アンケート結果(平成27～28年度)

テ ー マ		平成 27 年度	平成 28 年度
		脳卒中予防のための水分摂取の方法	摂食嚥下
開催形式		講義, 健康相談	講義, 体験
参加人数		72 人	53 人
アンケート回答数		72 人	50 人
性 別	男性	25.0%	14.0%
	女性	75.0%	82.0%
	無回答	0.0%	4.0%
年 代	～ 20 代	5.6%	2.0%
	30 代	2.8%	0.0%
	40 代	5.6%	10.0%
	50 代	16.7%	10.0%
	60 代	34.7%	26.0%
	70 代	22.2%	26.0%
	80 代	6.9%	22.0%
	90 代～	2.8%	4.0%
	無回答	2.8%	0.0%
イベントを何で 知りましたか (複数回答)	ポスター	13 人	13 人
	回覧板	回覧板による案内なし	1 人
	知人からの案内	5 人	6 人
	職員からの案内	24 人	21 人
	案内はがきを見て	はがきによる案内なし	7 人
	その他	4 人	6 人
リハビリセンターを 知っていましたか?	知っていた	92.0%	82.0%
	知らなかった	8.0%	14.0%
	無回答	0.0%	4.0%
満足度		認定看護師による講演 満足 86% 不満足 0% 無回答 14%	
		大満足 53% やや満足 11% ふつう 8% 不満 0% 無回答 28%	管理栄養士による体験 満足 74% 不満足 0% 無回答 26%

表2 市民公開講座アンケート結果(平成29～30年度)

		平成 29 年度	平成 30 年度
テ ー マ		お口から考えるあなたの健康	免疫力向上で健康に！
開催形式		講義（一部体験あり）	講義（一部体験あり）
参加人数		39 人	40 人
アンケート回答数		39 人	37 人
性 別	男性	20.5%	13.5%
	女性	64.1%	81.1%
	無回答	15.4%	5.4%
年 代	～ 20 代	0.0%	0.0%
	30 代	0.0%	0.0%
	40 代	0.0%	2.7%
	50 代	5.1%	8.1%
	60 代	25.6%	18.9%
	70 代	25.6%	51.4%
	80 代	23.0%	18.9%
	90 代～	0.0%	0.0%
	無回答	20.5%	0.0%
イベントを何で 知りましたか (複数回答)	ポスター	8 人	14 人
	回覧板	4 人	2 人
	知人からの案内	1 人	6 人
	職員からの案内	17 人	職員による案内なし
	案内はがきを見て	6 人	16 人
	その他	4 人	4 人
リハビリセンターを 知っていましたか？	知っていた	76.9%	89.2%
	知らなかった	7.7%	0.0%
	無回答	15.4%	10.9%
満足度		満足 51.3%	満足 73.0%
		不満足 0.0%	不満足 0.0%
		無回答 48.7%	無回答 27.0%

表3 看護の日イベントアンケート結果(平成30～令和1年度)

テーマ		平成30年度	令和1年度
		種だんごを作ろう	リラクゼーション
開催形式		体験, 展示	体験, 展示
参加人数		82人	51人
アンケート回答数		58人	27人
性別	男性	25.9%	7.4%
	女性	62.1%	44.4%
	無回答	12.1%	48.1%
年代	～20代	0.0%	0.0%
	30代	3.4%	0.0%
	40代	5.2%	0.0%
	50代	13.8%	7.4%
	60代	22.4%	14.9%
	70代	25.9%	40.7%
	80代	20.7%	33.3%
	90代～	1.7%	3.7%
	無回答	6.9%	0.0%
イベントを何で 知りましたか (複数回答)	ポスター	8人	7人
	回覧板	3人	5人
	知人からの案内	4人	0人
	職員からの案内	37人	1人
	案内はがきを見て	5人	13人
	その他	4人	6人
リハビリセンターを 知っていましたか?	知っていた	84.5%	88.9%
	知らなかった	22.4%	11.1%
	無回答	6.9%	0.0%
満足度	種だんごづくり	満足 72.4%	満足 81.5%
		不満足 3.4%	不満足 0.0%
		無回答 24.1%	無回答 18.5%
	展示・茶話会・血圧測定等	満足 56.9%	満足 66.7%
	不満足 3.4%	不満足 0.0%	
	無回答 39.7%	無回答 33.3%	

※平成28・29年度はアンケートを実施していないためデータなし

※参加人数：平成28年度116名，平成29年度54名